

中川村50年のあゆみ

- 昭和30年代 04
- 昭和40年代 06
- 昭和50～60年代 06
- 平成元年～10年 08
- 平成11年～20年 09
- 50年史・年表 10

中川らしさってなんだろう？

- 遠景から 14
- 中景から 16
- 近景から 17

いにしへの 歴史探訪

- つながりが価値をつくる 20
- 「農」が広がる 20
- 地域に描く夢 22
- 「中川産」を活かして 24
- 地域に賑わいを創り出す 25

共に生きる社会システム

- 暮らしの基盤をつくる 26
- 生活の価値向上をめざして 27
- 地域に支え合いの場をつくろう 28
- 協働の村づくりへ 29

成長する人と地域

- よろこびを分かち合える子育て 30
- 地域づくりの担い手を育てる 31
- 夢に向かい、上をめざす 32

再び、「中川らしさ」とは

- 簡素で効率的な行財政運営 36
- まち・むら交流 37
- ながわマップ 38



中川村長 曾我 逸郎

発刊のご挨拶

昭和33（1958）年8月1日に発足した中川村は、めでたく50周年を迎えました。10年前に移住してきた時、私は、村の美しい景色、すがすがしい気候、様々なおいしい農作物にまず感銘を受けました。そして、それ以上に、村民のまじめさ、やさしさ、祭りやスポーツで見せる元気さ、そしてユニークな取り組みをしておられる方の多いことに驚きました。村にはたくさんの方の輝きがあり、それは、村民が村を愛し、苦難を乗り越えズクをだして培ってきた結晶だと思っています。

歴史を振り返れば、三六災害があり、その前には戦争でたくさんの方が犠牲になりました。村の将来を思うとき、災害のないことを祈念し、平和を守り決して戦争に加担しない決意を新たにせざるを得ません。

今年、村は、「日本で最も美しい村」連合に加入いたしました。「最も美しい村」の一員として、村のすばらしさを再確認し、さらに磨きをかけ大切にしながら、それを生かして、発展していきたいと思っています。

村発足50周年にあたり、先人の努力に感謝し、子供たちが末永く心豊かに暮らせる村を力を合わせてつくっていくことを、皆で決意したいと思います。

中川村の位置・地勢

中川村は中央アルプス（木曾山脈）と南アルプス（赤石山脈）に挟まれ、天竜川が南流する信州伊那谷の中ほどにあり、上伊那郡の最南に位置し、天竜川を境に東に竜東南向地区、西に竜西片桐地区と、ふたつの地区に大別されます。北は飯島町と駒ヶ根市、東は大鹿村、そして南から西は松川町にそれぞれ接しています。

村は丘陵地や扇状地がいたるところに見られ、変化に富んだ地形を造っています。地質は花崗岩質で、表土はそれが風化した砂壤ローム層となっています。

竜東地区は伊那山地が走り、傾斜地が多く複雑な地形で平坦地が少ないため、果樹栽培が盛んに行われています。一方、竜西地区においては天竜川沿岸とその上段の扇状地に平坦な農地が多く、比較的規模の大きな農業経営が行われています。

また、幹線道路である国道153号が走り、沿道に商店街が形成されています。



中川村基本指標

総面積	77.05平方キロメートル
山林	75.3%
畑	5.2%
原野	5.3%
田	6.4%
宅地	2.1%
その他	5.7%
東西	15km
南北	10km
周囲	41.4km
標高	最高/1,688メートル 最低/465メートル
総人口	5,389人(男/2,615・女/2,774)
世帯数	1,573戸
地区数	27
産業別就業人口	第1次産業/ 797人 第2次産業/1,004人 第3次産業/1,210人

人口・世帯数は平成20年9月1日現在（外国人含む）。産業別就業人口は平成17年国勢調査。



竜東線より中央アルプスを遠望。中学校、南原団地、その下を天竜川が蛇行する